

1. 調査報告概要表

作成日 2009年8月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1570300531
法人名	社会福祉法人上越老人福祉協会
事業所名	グループホーム宝寿の家
所在地 (電話番号)	新潟県 上越市 平成町 339 (電話) 025 - 525 - 8260
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成21年8月5日

【情報提供票より】(21年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 20,000円		

(4) 利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.75 歳	最低 82 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人高田西城会 高田西城病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地にあり、外観は施設のような看板は設置しておらず、周りの建物と違和感が感じられません。また、近くには公園やスーパーがあり日常のご利用者も利用しています。母体施設である特別養護老人ホームが近くにあり、職員研修や相談など連携が密にとれているほか、同法人の地域密着型サービスの管理者との情報交換も行なっており、安心してサービスが利用できる形が整っています。職員の異動などもあり、改善に至っていない項目もありましたが、管理者はしっかり課題として受け止め対応されていた点が印象的でした。今回の評価での課題も、管理者を中心に良いチームワークで改善されることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった『マニュアルの整備』・『地域とのつきあい』は改善計画シートで計画を立て改善されていましたが、『同業者との交流を通じた向上』・『災害対策』については引き続き課題とさせていただきます。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価はすべての職員が行い、管理者がまとめ提出しました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	包括支援センター、自治会長、民生委員、ご家族代表に参加していただき現状の報告を行っています。運営推進会議で頂いた意見は職員会議で話し合い、取り入れるべき点は取り入れるように努め、サービスの向上に向け取り組んでいます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱や面会の際に職員がご意見を吸い取るように対応しています。また、必要に応じて家族アンケートを実施し率直な意見を頂けるようにしています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩に兼ねて地域の防犯パトロールを行っているほか、防災訓練、どんど焼き等案内を頂いた町内行事には参加しています。また、老人会が行なう敬老会も案内を頂きますが、会場の設備状況を考慮し参加はしていません。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての『馴染みの関係』・『人権の尊重』という理念を開設当初に職員が打合せして作成し、現在も継続して理念に掲げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員には管理者から理念の説明を行なっています。また、毎月の職員会議には必ず理念の確認を行い、ご利用者へのケアの向上に繋がられるように検討しています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	これまではホーム独自の広報誌を作成し、ご家族への配布と町内への回覧を行なっていましたが、現在、広報誌の作成は行なわれていません。		広報誌を活用し、ホームの理念や活動状況をご家族や地域に理解していただくことで、今まで以上にご家族や地域との関わりを持てるようにされることを期待します。
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に兼ねて地域の防犯パトロールを行っているほか、防災訓練、どんど焼き等案内を頂いた町内行事には参加しています。また、老人会が行なう敬老会も案内を頂きますが、会場の設備状況を考慮し参加はしていません。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価はすべての職員が行い、管理者がまとめ提出しました。評価結果確定後、職員会議にて検討し改善に向けて取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター、自治会長、民生委員、ご家族代表に参加していただき現状の報告を行っています。運営推進会議で頂いた意見は職員会議で話し合い、取り入れるべき点は取り入れるように努め、サービスの向上に向け取り組んでいます。		これまでは2ヶ月に1回の運営推進会議の開催ができていましたが、この4ヶ月間は管理者の体調不良などもあり、開催ができませんでした。計画的に日程調整を行い、2ヶ月に1回の開催をされることを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員には運営推進会議に出席していただき、困難事例や相談がある場合は法人本部に確認をとり対応しています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症研修センターから送られてきた虐待に関する資料の個々の職員での確認は行っていますが、研修の時間をとって共通理解を図るなどの取り組みは行われていません。		研修の時間をとり事例検討なども取り入れ、虐待の防止に向け共通理解を得られる取り組みを実施されることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にはご利用者の暮らしぶりを報告しており、健康状態については変化が見られた時にはその都度電話にて連絡し、ご家族の安心に繋がるよう努めています。しかし、今まで行っていた普段の生活を記録した便りの作成が現在は行なわれていません。		ご家族にご利用者の暮らしぶりをより知っていただき、安心していただくためにも、普段の生活を記録した便りを送付されることを期待します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱や面会の際に職員がご意見を吸い取るように対応しています。また、必要に応じて家族アンケートを実施し率直な意見を頂けるようにしています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やカンファレンスの中で職員の意見を聞き、できるだけ反映させています。また、半期に1度の評価面接や必要に応じて面接の機会を設け、不安や不満が生じないように対応しています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での人事異動はあるものの、お別れ会・歓迎会を行い、ご利用者に理解を頂いているほか、ご家族へは面会時に説明を行なっています。また、異動でくる職員には2～3回来て頂き様子を見てもらったり、新入職員にはベテラン職員とシフトを合わせるなどの配慮もしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	法人で統一したマニュアルが一通りあり、前回の評価を受け事業所の実態に合わせてマニュアルの見直しも行いました。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は研修委員会が階層別とテーマ別に分けて計画し、月に1回程度の機会が提供されており、各自が参加できるよう機会が確保されています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の4つの事業所で地域密着型施設部会を行い、管理者同志の交流を行なっています。		他地域との施設交流、他法人のグループホームとの交流を行い、新しい気づきをサービスの向上に役立てられるように検討されることを期待します。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩の確保(時間・スペース)は難しいですが、年1回の職員旅行や納涼会、不定期で懇親会を行なうなどしてストレスの軽減に努めています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には希望や状態に合わせて、ご利用者・ご家族にホームの見学をしていただいています。また、入居後もご家族と情報交換しながら安心して生活していただけるように支援しているほか、ご家族には外泊や外出が可能な事をお伝えしご理解を頂いています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の持つておられる力を職員が見極め、掃除・調理・畑仕事など出来る事を発揮できる場を提供しています。また、野菜の収穫についてや漬物づくりなどはご利用者から教えてもらう場があります。1対1で過ごせる時間を意識的につくりもってご利用者と喜怒哀楽を共有していきたいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒にどう支援していったらいいのかを考えていく場を作っており、一方的な考えを押し付けつけるのではなく共に考え、想いや支援のあり方を確認しています。外出の行事の際や敬老会にはご家族へご案内を送り参加して頂いています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談やその後の介護計画作成時のカンファレンスの機会にご家族から今までの暮らし方や嗜好を聞き取り、その人らしい生活が過ごせるように努めています。また、日々の生活の中からもご利用者の思いや意向を把握するように努めています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には自宅に訪問し、ご利用者の暮らしぶりや環境を確認しています。また、ご家族からアセスメントを行い、今まで生活されてきた様子や好み等の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを週に1度は行い、情報を共有しているほか、居室担当者が毎月モニタリングを行なっています。ケアプラン作成時には、ご家族の方にも出席して頂きご利用者の意向やご家族の意向を尊重しながら話し合い計画を立てている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	居室担当者が毎月モニタリング、計画作成担当者が3ヶ月に1回総括を行い見直しをしています。また、状態の変化があった時は現状に合わせた計画の見直しを行なっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じての受診支援、日用品の購入支援、希望される理美容への送迎支援、希望に応じての外出支援などご利用者・ご家族の要望に応じた柔軟な支援を行なっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を基本として、受診や、月1回の定期的な往診と体調の変化時には必要な支援や受診に繋がるような関係を築いています。事業所からご利用者の状況を理解していただくために情報提供表をお送りし、情報の共有化もしています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしてはできるだけご家族の要望に対応したいと考えており、状況に応じて医師やご家族と話し合いを行い方針を共有しています。しかし、ホームには看護師がいないので、医療的なケアが必要になった場合に対応できるかという点は職員の不安になっています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については法人で研修を行っており、書類もスタッフルームで管理されております。ご利用者への声かけや対応も、お年寄りを敬うように対応するようにと徹底しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはありますが、ご本人のご希望をお聞きしながら、その日によって柔軟な対応をしています。ご利用者の要望にできるだけ支援できるように職員の配置も調整して対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はテレビや新聞の広告や料理の本を見ながら各々の好みを取り入れ引き出すように努めています。また、食事準備や片付けは出来る能力に応じ職員と一緒にしています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。ご利用者の行動や仕草などを観察しながら個々に合わせた誘導をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの好みに応じた湯温や入浴方法に合わせ入浴していただいております。基本的には毎日入浴していただいておりますが、入浴を嫌うご利用者には清拭対応など状況に合わせた対応をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業、調理作業、貼り絵、塗り絵などアセスメントに基づき、各々の方にあった役割や楽しみ、張り合いに繋がるように支援しています。		今後も個人にあったものになるよう定期的に見直しをし、生活歴や力を見極め取り組んでいきたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーに買い物に行ったり、公園へ散歩に行ったり、日常的に外出するように心がけています。花見の時期には高田公園に行くなど、月に1回は外出を伴う行事も計画しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設にて検討委員会があり(ホーム職員も参加)身体拘束に関する勉強会にも参加しています。職員も拘束しないケアに取り組んでいる。管理者は言葉による拘束も含め、拘束がいけないということを職員に徹底しています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間は玄関の施錠を行なっていますが、日中は自由に出入り出来るようになっています。職員はご利用者の所在をしっかりと把握し、また外出された時も近隣住民の協力も得ながら安全な対応に努めています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットノートを作成し、事故発生時にはすぐに、事故原因や改善策を検討し、申し送りとカンファレンス時に徹底しています。		ヒヤリハットの事例でも判断に個人差があり、ヒヤリハットノートに記入していない事例もありました。スタッフ会議で基準の確認を行い、個人差が生じないようにされることを期待します。
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体施設にて年1回救急法について学ぶ機会があります。定期的には行えていませんが、不安なことは母体施設の看護師から指導してもらっています。		昨年度は救急法について研修が行なわれておりませんでした。定期的に研修に参加し、すべての職員が適切な初期対応ができるようにされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各居室にはヘルメットとライトを用意しており、災害時を想定した食糧の備蓄もありました。火災、地震マニュアルがあり、職員は把握しています。昨年度は1回避難訓練を行ないましたが、町内の方への参加の声かけは行っておりませんでした。		年に2回の避難訓練を行なうと共に、夜間想定訓練、町内への参加の声かけなども行なわれることを期待します。また、食糧だけでなく水も災害時に備え備蓄されることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み・状態に合わせた支援を行っています。定期的に母体施設の栄養士より栄養バランスについてチェックして頂き、適切な助言に基づき支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは一般的な家庭のような造りのリビングになっており、ご利用者と毎月一緒に作るカレンダーや季節に合った花が飾られており、季節感があります。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングと畳の部屋があり、選択できるようになっています。ご利用者の馴染みの物を持ってきて頂くように説明しており、ご利用者が居心地よく過ごせるようにしていただいております。		